

科学と社会委員会（第24期・第11回）
議事次第

1. 日 時 令和元年10月17日（木） 12：15～13：30

2. 会 場 日本学術会議5階 5－C（1）会議室

3. 議 題

- (1) SDGsに関わる提言のHP掲載について
- (2) 提言等で異なる意見が出た場合の対応
- (3) 今後の活動について
- (4) その他

(添付資料)

資料1－1	SDGs 関連提言等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1－2	提言等の提出チェックシート・・・・・・・・・・	5
資料2	学術会議の提言等における異なる意見の発出についての考え方と対応・・・	8
資料3	学術とSDGs 報告案 日本での取り組みをもとに・・・・・・・・・・	12
参考資料1	前回議事要旨等・・・・・・・・・・・・・・・・	13

提言等のSDGs関連項目一覧（新チェックシート適用後）

公表日	委員会・分科会	英文委員会・分科会名	日本語表題	英語表題	主SDGs	日本語要約	英語要約	キャッチフレーズ	英文キャッチフレーズ	キーワード
2019/2/14	科学者委員会学協会連携分科会		学協会に係る法人制度－運用の見直し、改善等について	Proposal on Revision and Improvement of Public Interest Corporation Act, related to Academic Societies	9		The new act on Public Interest Corporation started in 2008, and many large academic societies transferred to general incorporated or public interest incorporated associations. The act has been effective partly to improve the transparency of the management of associations. However, the act has provided many negative effects on the management of academic societies. This proposal is “the revision and improvement of the operation of the act regarding the academic societies”. This proposal also requires “the accounting rules for cooperative body of academic societies”, “the system for reserve fund for preparing international conference which is managed by the cooperative body of academic societies”. As mentioned above, we propose the improvement of the systems surrounding academic societies for the development of Japanese science and technology.			
2019/2/21	化学委員会 化学分野の参照基準検討分科会		大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 化学分野	Curriculum reference for proficiency for university education: Chemistry	4,9		This reference standard provides six basic principles that all students, including those who do not specialize in chemistry, should acquire. It also specifies knowledge and understanding of chemistry topics necessary to learn those principles, which are organized into 18 subjects. As for the chemistry learning, it should be performed by acquiring knowledge and understanding through lectures and books, and also through experiments, and exercises. In particular, the report points out the importance of acquiring knowledge by comprehensive abilities through active learning such as problem solving. Necessary knowledge of chemistry as liberal art education at the university is to provide fundamental understanding of phenomena in nature. In addition, it is essential for student majoring in chemistry to develop the ability to accurately read sentences, to logically understand the contents of the description, and to express their thoughts clearly. And to learn the mechanism of society.			

2019/4/16	土木工学・建築学委員会		免震・制振のデータ改ざん問題と信頼回復への対策	A Proposal for a Reliable Recovery Action on the Data Falsification Problem of Base Isolation and Vibration Control Dampers	9,11,12		After the devastating earthquake disasters in Kobe, Japan in 1995, base isolation and the dynamic control technology were applied in more buildings and bridges. However, data falsification problems of base isolation devices and vibration control dampers appeared. This problem seems to have occurred because performance checks and quality control of the product were left to the manufacturing companies' own inspection processes. The following reliable recovery actions to prevent any incidents are proposed to make stronger, more resilient structures and society: 1. Third-party sampling inspection should be required to avoid data falsification and ensure structural safety. 2. Dynamic loading test apparatus for full-scale devices should be introduced to comply with global standards. 3. A jointly owned, designated inspection agency with a large-scale dynamic testing facility should be established to perform the unbiased third-party sampling tests.			
2018.12.26	物理学委員会IAU分科会、物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会		ハッブルの法則の改名を推奨するIAU決議への対応	A request to respond to the IAU resolution to recommend renaming of the Hubble law as the Hubble-Lemaître law	4					
2019.4.9	応用昆虫学分科会		衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化	Intensifying education and research on Medical Entomology and Zoology aimed at controlling the damage caused by medically important arthropods	3,4,11					
2019/5/21	総合工学委員会 原子力安全に関する分科会		我が国の原子力発電所の津波対策―東京電力福島第一原子力発電所事故前の津波対応から得られた課題―	On measures against Tsunami of nuclear power plants in Japan -What was wrong about measures against Tsunami before Fukushima Nuclear Accident?-	7,9,12,13					

2019/7/2	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同 ゲノム科学分科会 臨床医学委員会 臨床ゲノム医学分科会、脳とこころ分科会、腫瘍分科会		ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進	Integration of Multilayered Genomics for Precision Medicine	3,9					
2019/7/8	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会生物科学分科会		高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）	Selection of important terms for biology education in high school (revised edition)	4					
2019/9/12	基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会		2020年のオリンピック・パラリンピックに向けた日本紅斑熱・SFTSなどのダニ媒介感染症対策に関する緊急提言	Emergency recommendation to implement preventive measures against tick-borne infections, including Japanese Spotted Fever and SFTS (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome), of athletes, delegates and visitors in the 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games	3,11					
2019/9/20	総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会		老朽・遺棄化学兵器廃棄の安全と環境の保全に向けて	For the Safety and the Environmental Conservation on the Disposal of Old and Abandoned Chemical Weaponry	6,12,13,14,15,16,17					

2019/9/20	地球惑星科学委員会 I G U 分科会		地名標準化の現状と課題	Challenges for the national standardization of geographical names in Japan	1～ 1 7					
修正等対応中	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会		持続可能な生命科学のデータ基盤の整備に向けて	Toward Providing Sustainable Data Resources in Bioscience	9					
修正等対応中	史学委員会中高大歴史教育に関する分科会		歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について	Toward University Entrance Examination Reform for Fostering Historical Thinking	4					

提言等の提出チェックシート

このチェックシートは、日本学術会議において意思の表出（提言・報告・回答、以下「提言等」という）の査読を円滑に行い、提言等（案）の作成者、査読者、事務局等の労力を最終的に軽減するためのものです¹。

提言等（案）の作成者は提出の際に以下の項目を 1～11 をチェックし、さらに英文タイトル（必須）、英文アブストラクト（任意）、SDGs との関連の有無（任意）を記載し、提言等（案）に添えて査読時に提出してください。

記入者（委員会等名・氏名）：

和文タイトル _____

英文タイトル（ネイティブ・チェックを受けてください）

	項目	チェック
1. 表題	表題と内容は一致している。	1. はい 2. いいえ
2. 論理展開 1	どのような現状があり、何が問題であるかが十分に記述されている。	1. はい 2. いいえ
3. 論理展開 2	特に提言については、政策等への実現に向けて、具体的な行政等の担当部局を想定していますか（例：文部科学省研究振興局等）。	1. 部局名： 2. いいえ
4. 読みやすさ 1	本文は 20 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。※図表を含む	1. はい 2. いいえ
5. 読みやすさ 2	専門家でなくとも、十分理解できる内容であり、文章としてよく練られている。	1. はい 2. いいえ
6. 要旨	要旨は、要旨のみでも独立した文章として読めるものであり 2 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。	1. はい 2. いいえ
7. エビデンス	記述・主張を裏付けるデータ、出典、参考文献をすべて掲載した。	1. はい 2. いいえ
8. 適切な引用	いわゆる「コピペ」（出典を示さないで引用を行うこと）や、内容をゆがめた引用等は行わず、適切な引用を行った。	1. はい 2. いいえ

¹ 参考：日本学術会議会長メッセージ、「提言等の円滑な審議のために」（2014 年 5 月 30 日）。
<http://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/1>

9. 既出の提言等との関係	日本学術会議の既出の関連提言等を踏まえ、議論を展開している。	1. はい 2. いいえ
10. 利益誘導	利益誘導と誤解されることのない内容である。	1. はい 2. いいえ
11. 委員会等の趣旨整合	委員会・分科会の設置趣旨と整合している。	1. はい 2. いいえ
※9で「はい」を記入した場合、その提言等のタイトルと発出委員会・年月日をお書きください		
※チェック欄で「いいえ」を選択した場合、その理由があればお書きください		

◎ SDGs（持続可能な開発目標）との関連（任意）

以下の17の目標のうち、提出する提言等（案）が関連するものに○をつけてください（複数可）。提言等公表後、学術会議HP上「SDGsと学術会議」コーナーで紹介します。

1. ☐ 貧困をなくそう
2. ☐ 飢餓をゼロに
3. ☐ すべての人に保健と福祉を
4. ☐ 質の高い教育をみんなに
5. ☐ ジェンダー平等を実現しよう
6. ☐ 安全な水とトイレを世界中に
7. ☐ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
8. ☐ 働きがいも経済成長も
9. ☐ 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. ☐ 人や国の不平等をなくそう
11. ☐ 住み続けられるまちづくりを
12. ☐ つくる責任つかう責任
13. ☐ 気候変動に具体的な対策を
14. ☐ 海の豊かさを守ろう
15. ☐ 陸の豊かさも守ろう
16. ☐ 平和と公正をすべての人に
17. ☐ パートナリーシップで目標を達成しよう

※「持続可能な開発目標（SDGs）」とは

2015年9月に国連総会が決議した「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げた目標。

詳細は国連広報センターHPをご覧ください。

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

◎ 英文アブストラクト（任意）150 words 以内

資料 2

学術会議の提言等における異なる意見の発出についての考え方と対応

2019/10/17

科学と社会委員会
委員長 渡辺美代子

● これまでの経緯と幹事会懇談会承認事項

- 1) 前回の科学と社会委員会および科学と社会委員会企画分科会での検討をふまえ、7月25日幹事会懇談会にて、添付資料（懇談会資料(20190725)）の内容が了承された。その際、今後どのようにこの承認内容を今後どのように取り扱うか、どのように周知をするかについての検討が要請された。

・ 幹事会懇談会にて了承された事項（まとめ）：

- (1) 学術会議からの提言等においても、異なる意見や見解が発出されることは必然である。
 - (2) 平素において、学術会議からの提言等の発出において、過去の提言や報告等と異なる意見や見解の存在は、様々な視点から検討がなされた上で意見が発出されていることを示すものである。
 - (3) 緊急で危機に際する事態においては、ワンボイスとしての集約ができなくとも、科学者の異なる意見や見解の「分布」を示しながら、また、緊急であるために意見や見解が近い将来変更される可能性があることも念頭におきながら、その時点での根拠を丁寧に説明し発信することが重要である。
 - (4) 諸留意点と具体的な対応（略。参考資料「を参照のこと」）
- 2) 承認された具体的な対応と上記要請を受けて、四役会議においての検討および事務局との検討から、以下の対応をとる提案がなされた。

(1) チェックシートおよびインパクトレポートの改訂

過去の提言等において異なる意見の存在が前提となっている場合は、そのことをより明確にし、周知する。

- (2) 「部、課題別委員会及び幹事会の附置委員会による勧告・要望・声明・提言・報告の作成手続きに関するガイドライン」に該当内容を加筆し、提言等の作成の際の指針として運用する。
- (3) 会長メッセージとして、本年中に（第24期の提言等が作成され、提出される前に）関連内容について発信する。

● 本日の審議

- 1) 上記の対応(1)および(2)について審議をお願いしたい。【審議 1】
- 2) 幹事会懇談会において承認されたその他の具体的な対応と留意事項の扱いについて、主体の審議をお願いしたい。【審議 2】

【審議 1】 対応(1)および(2)について

- 1) 対応(1): チェックシートおよびインパクトレポートの改訂
 - ・異なる意見が示されている提言等との関係性および発出後の関係性の変化をより明らかにするために、
 - i) 「9. 既出の提言等との関係、日本学術会議の既出の関連提言等を踏まえ、議論を展開している。はい or いいえ」に加えて、「※9で「はい」を記入した場合、その提言等のタイトル、委員会等（主体）、年月日をお書きください」として記載を要請する。
 - ii) インパクトレポートにおいて、表出内容に修正・訂正があるかどうか、異なる意見との関係性に变化があるかどうか等についての記載を追加する。
- 2) 対応(2): 「部、課題別委員会及び幹事会の附置委員会による勧告・要望・声明・提言・報告の作成手続きに関するガイドライン」に当該事項を加筆し、提言等の作成の際の指針として運用する。
 - ・上記現行ガイドライン 2. のあとに、を付け加えて、現行の 3. 以降の番号をずらす。

(案文)

2. 社会的関心が高く国民に多大な影響が及びうる問題や、不確定要素が伴い時を追って状況が変化する緊急性が高い問題については、専門家の間で意見の統一ができなくても、多様な視点からの議論の集約や検討を経た上で、異なる意見のそれぞれの根拠を付した意見分布を明示する形で情報等が発信される必要がある。科学と社会委員会および幹事会は、こうした趣旨をふまえ、適時、適切な発信に努めるものとする。

＜上記内容の骨子を変えずに文言選択について事務局と調整予定＞

【審議 2】 幹事会懇談会において承認された他の具体的な対応と留意点の取り扱い

- 1) 他の具体的な対応：
 - ・ 提言等には、従来通りの共通の記述様式として「この提言は、〇〇委員会（分科会）の審議結果を取りまとめ公表するものである。」との記載をし、表出母体を明確にする。
 - 現行どおり。
 - ・ チェックシートおよびインパクトレポートの運用においては、参照すべき提言との関係を記述することやリンクを張るなどより充実した関連情報を提供する。

- 事務局担当。
- ・ 提言等の内容について外部からの問い合わせや反論がある場合は、まず発出母体において内容と対応を検討し、検討結果を幹事会に報告し、その過程において学術会議内において異なる意見を示すことについてなんら問題ないことを確認する。
 - 現行どおり。
- ・ チェックシートとインパクトレポートで異なる意見の存在が確認できた場合、対立する意見をもとに対話を促進し、相互理解を深化させるためのシンポジウム等などの企画を推奨する。
 - 科学と社会委員会および幹事会担当。

2) その他の留意点：

- (1) 緊急で危機に際する事態においては、事態の経時的変化や得られるデータや情報の質の変化も考慮の上、意見や見解の分布の変化や訂正についても随時発信する。修正および変更・定性点については、その理由や妥当性を可能な限り丁寧な説明を合せておこなうことが必要である。
 - 【審議 1】 2) の内容に反映済。
- (2) 学術会議からの提言等については、提言等の表出者が、異なる意見や見解について責任をもって考察するものとする。提言する内容とは異なる過去の提言や報告等が存在する場合には、発出する提言内容と過去の内容がどのような関係性にあるのかについての言及がなされることが望ましい。加えて、未解決の課題や問題あるいは未検討事項がある場合は、それらについての言及もなされることが望ましい。
 - 【審議 1】 1) の内容に反映済。
- (3) 加えて、査読プロセスや幹事会での承認においても、必要であれば提言等の発出者に異なる意見やその分布を示すことを要請することも念頭に置いて、発出される意見の位置づけをより意識して審査、審議する。公開時においては、提言の位置づけの周知や内容照会先の提示をより工夫することも検討する。
 - 未対応。(←取り扱いについて、ご意見をいただきたい。)
- (4) 複数の異なる意見が存在し、かつ社会的影響が大きい内容の情報発信については、データや複数の意見を発信し続けるという原則は保持しつつ、情報発信によって生じうる負の効果に対する専門的な知見も慎重に配慮しながら、無用な混乱をできるかぎり回避するよう対処することが望まれる。
 - 現行どおり。

● 今後の進め方

- 1) チェックシートおよびインパクトレポートの改訂：
 - (予定) 本委員会での承認 → 10月幹事会への提出 承認を経て → 運用へ。

2) 「部、課題別委員会及び幹事会の附置委員会による勧告・要望・声明・提言・報告の作成手続きに関するガイドライン」への加筆等：

(予定) 本委員会での承認 → 事務局との文言調整+10月幹事会への提出
承認を経て→ 運用へ。

以上。

科学と社会委員会と企画分科会の合同報告として

学術と SDGs 報告案

日本での取り組みをもとに

1. はじめに
2. 科学政策と SDGs：国際的動向の中での SDGs の意義
3. SDGs に対する大学の取り組み、その結果として見えてきた問題・課題
4. SDGs に対する大学以外の研究機関による取り組み、その結果として見えてきた問題・課題
5. SDGs に対する若手研究者の取り組み、その結果として見えてきた問題・課題
6. 学術のアウトリーチ（サイエンス・カフェ etc.）と SDGs
7. SDGs と人文学
8. SDGs から見た学術会議（提言等と SDGs の関係に関する分析など）
9. まとめ： 日本から見た SDGs の功罪

科学と社会委員会（第24期・第9回）議事要旨

1 日 時 平成31年4月25日（木） 12:00～13:00

2 場 所 日本学術会議5階 5-C（1）会議室

3 出席者 渡辺 美代子（副会長・委員長）、小安 重夫（第二部会員・幹事）、
高橋 桂子（第三部会員・幹事）、遠藤 薫（第一部会員）、藤原 聖子（第一部会員）、
松浦 純（第一部会員）、平井 みどり（第二部会員）、古谷 研（第二部会員）、
坪井 俊（第三部会員）、藤井 良一（第三部会員）、中村 崇（第三部会員）、
沖 大幹（連携会員）

（欠席） 小林 傳司（第一部会員・副委員長）、甲斐 知恵子（第二部会員）、
西村 いくこ（第二部会員）、蟹江 憲史（連携会員）

（事務局）鳥生審議専門職

4 議事要旨

（1）学術会議からの情報発信についての考え方について

- 高橋幹事より、資料5に基づき説明があり、意見交換があった。概要は以下の通り。
 - ・提言等については、学術会議の責任と、作成した委員会・分科会の責任は分けられるのか。
 - 既に設置期限が終わっている委員会等については考えなければならぬ。幹事会を通っているという意味では学術会議にも責任があるだろう。
 - ・提言等の内容が最新の知見でアップデートされることはあり得る。このアップデート（リバイス）のプロセスを明確にすべきではないか。
 - ・特に政治的に利用されやすいものは他の提言等の整合性をチェックしたり、両論併記を行った方が良好だろう。
 - ・過去の提言等との整合性を提言等の内か外か、どこかに表記するというのも考えられる。
- 本件については高橋幹事が今回の意見を踏まえて整理し、メールで委員に諮ることとなった。

（2）SDGsに係る提言のHP掲載について

- ・科学と社会委員会としては、日本語要約、キーワード、（英文）キャッチフレーズ、ツイッターの説明文については、提言等の作成委員会等に案を作成してもらい、科学と社会委員会を確認や修正のお願いをする方向で提案することとなった。
- ・当面は23期のHPに24期の提言等を追加していくこととなった。

（3）提言チェックシートの改訂について

- ・チェックシート9.において、既出の提言等とどういう関係なのかを書いて頂くこととなった。

（3）提言の整理の仕方、見せ方について

- ・マスコミに対し、定期的にどんな提言等が出ているかプレスリリースを送るようになればいい。
- ・探しているテーマに的確にアクセスしやすくするために、HPに掲載している提言の「ポ

- イント」内部の検索ができるようになればいい。
- 英文 HP の充実については、広報委員会で検討することとしたい。

以 上

科学と社会委員会（第24期・第10回）議事次第

1. 日 時 令和元年7月31日（水）

（※会則第31条による委員会における議決方法の特例により、メール審議を行った）

2. 審議内容

提案1 サイエンスアゴラ 2019（年次総会）の後援に係る審議付託について

3. 結果

提案1について、後援して良い旨、会長に回答することとなった。